

表 3-3 哺乳類を用いた人健康への内分泌攪乱作用に関する試験結果（統括表）

(1) 平成12年度優先物質

物質名	試験結果
33.塩化トリブフェルス	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
34.塩化トリフェニルス	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
36.4-ニルフェノール(分岐型)	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
36.4-t-オキフェノール	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。
38.フタル酸ジ-2-エチルヘキシル	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
39.フタル酸ブチルベンジル	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
40.フタル酸ジ-n-ブチル	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
41.フタル酸ジシクロヘキシル	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
42.フタル酸ジイソ	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
45.アジピン酸ジ-2-エチルヘキシル	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
46.ベンゾフェノン	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
48.オクタジオキシソ	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。

(2) 平成13年度優先物質

物質名	試験結果
5.ベンゾクロフェノール	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
8.アミトロール	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
37.ピスフェノール A	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
44.2,4-ジクロフェノール	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
47.4-ニトロトルエン	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
63.フタル酸ジベンジル	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
64.フタル酸ジヘキシル	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。
65.フタル酸ジプロピル	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性与考えられる影響が認められた。

(3) 平成 14 年度優先物質

物質名	試験結果
4. α -キクロヘキセン	1 世代試験を実施中
12. β -キクロヘキサン	1 世代試験を実施中
14. cis-ケルテン	1 世代試験を実施中
16. trans-ノケル	1 世代試験を実施中
18. p,p'-DDT	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。 なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性和と考えられる影響が認められた。
18. o,p'-DDT	1 世代試験を実施中
19. p,p'-DDE	1 世代試験を実施中
19. p,p'-DDD	低用量(文献情報等により得られた人推定曝露量を考慮した比較的低濃度)での明らかな内分泌攪乱作用は認められなかった。 なお、高用量(既報告で影響が認められた濃度)では、一般毒性和と考えられる影響が認められた。